

八日市南高等学校 実践報告

ユニバーサルデザインの視点に立った授業づくりに係る研究

滋賀県立八日市南高等学校

校長 野口 佐登司

教諭 江南 由紀子



目次



- 1 八日市南高等学校について
- 2 特別支援教育に係る取組について
- 3 本校における課題について
- 4 ユニバーサルデザインの視点に立った授業づくり
に係る研究について
- 5 最後に

1 八日市南高等学校について



- 農業高校(農業科・食品科・花緑デザイン科)
- 地域に根ざした学校
- 就職:進学 = 7:3
- 3年生になると授業時数の約半分を農業の授業が占める
- 国語・数学・英語などは少人数講座で実施
- 中学校から個別の指導計画等を引き継ぐ生徒は1学年15名弱
(学年の1割)
- 中学校で特別支援学級に在籍した生徒は各学年に2～4人程度

2 特別支援教育に係る取組について



- 個別の教育支援計画・個別の指導計画を作成
- 厚生人権・特別支援教育推進委員会(年間5回)の開催
(情報共有、合理的配慮の提供についての検討 等)
- 特別支援教育係
 - ・クラス担任・教科担任への助言
 - ・外部機関との情報共有および連携
 - ・特別な支援を必要とする生徒についての調査

3 本校における課題について



○特別な支援を必要とする生徒の増加

→ 一人ひとりの生徒の教育的ニーズにどのように対応するか

○個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成

→ 実際の生徒支援や授業づくりにどのように活用するか

 **すべての生徒にとってわかりやすい授業づくり**

4 ユニバーサルデザインの視点に立った 授業づくりに係る研究について



研究の目的

- ユニバーサルデザインの視点に立った授業づくりに取り組むことで、生徒・教職員みんながお互いのよさや違いを認め合う関係を構築しつつ、すべての生徒の学びを保障することで、安心できる居場所としての学校を目指す。

研究経過①（「UDの視点に立った授業づくり」について学ぶ）



学びのユニバーサルデザイン(UDL)ガイドライン

CAST | Until learning has no limits™

取り組みのための多様な方法
を提供しましょう

感情のネットワーク
「なぜ」学ぶのか



提示 (理解) のための多様な方法
を提供しましょう

認知のネットワーク
「何を」学ぶのか



行動と表出のための多様な方法
を提供しましょう

方略のネットワーク
「どのように」学ぶのか



アクセ
スする

興味を持つ

ためのオプションを提供する (7)

- 個人々の選択や自主性を最適にする (7.1)
- 自分との関連性・価値・真実味を最適にする (7.2)
- 不安要素や気を散らすものを最小限にする (7.3)

知覚する

ためのオプションを提供する (1)

- 情報の表し方をカスタマイズする方法を提供する (1.1)
- 聴覚情報を、代替の方法でも提供する (1.2)
- 視覚情報を、代替の方法でも提供する (1.3)

身体動作

のためのオプションを提供する (4)

- 応答様式や学習を進める方法を変える (4.1)
- 教員や支援テクノロジーへのアクセスを最適にする (4.2)

積み
上げる

努力やがんばりを続ける

ためのオプションを提供する (8)

- 目標や目的を目立たせる (8.1)
- チャレンジのレベルが最適となるよう(課題)のレベルやリソースを変える (8.2)
- 協働と仲間集団を育む (8.3)
- 習熟を助けるフィードバックを増大させる (8.4)

言語、数式、記号

のためのオプションを提供する (2)

- 語彙や記号をわかりやすく説明する (2.1)
- 構文や構造をわかりやすく説明する (2.2)
- 文字や数式や記号の読み下し方をサポートする (2.3)
- 別の言語でも理解を促す (2.4)
- 様々なメディアを使って図解する (2.5)

表出やコミュニケーション

のためのオプションを提供する (5)

- コミュニケーションに多様な媒体を使う (5.1)
- 制作や作文に多様なツールを使う (5.2)
- 練習や実践での支援のレベルを段階的に調節して流暢性を伸ばす (5.3)

自分
のもの
にする

自己調整

ためのオプションを提供する (9)

- モチベーションを高める期待や信念を持てるよう促す (9.1)
- 対処のスキルや方略を促進する (9.2)
- 自己評価と内省を伸ばす (9.3)

理解

のためのオプションを提供する (3)

- 背景となる知識を活性化または提供する (3.1)
- パターン、重要事項、全体像、関係を目立たせる (3.2)
- 情報処理、視覚化、操作の過程をガイドする (3.3)
- 学習の転移と般化を最大限にする (3.4)

実行機能

のためのオプションを提供する (6)

- 適切な目標を設定できるようガイドする (6.1)
- プランニングと方略の向上を支援する (6.2)
- 情報やリソースのマネジメントを促す (6.3)
- 進捗をモニターする力を高める (6.4)

学びのエキスパートとは...

目的を持ち、やる気がある

いろいろな学習リソースや知識を活用できる

方略を使いこなし、自分の学びの舵取りをする

校内研修

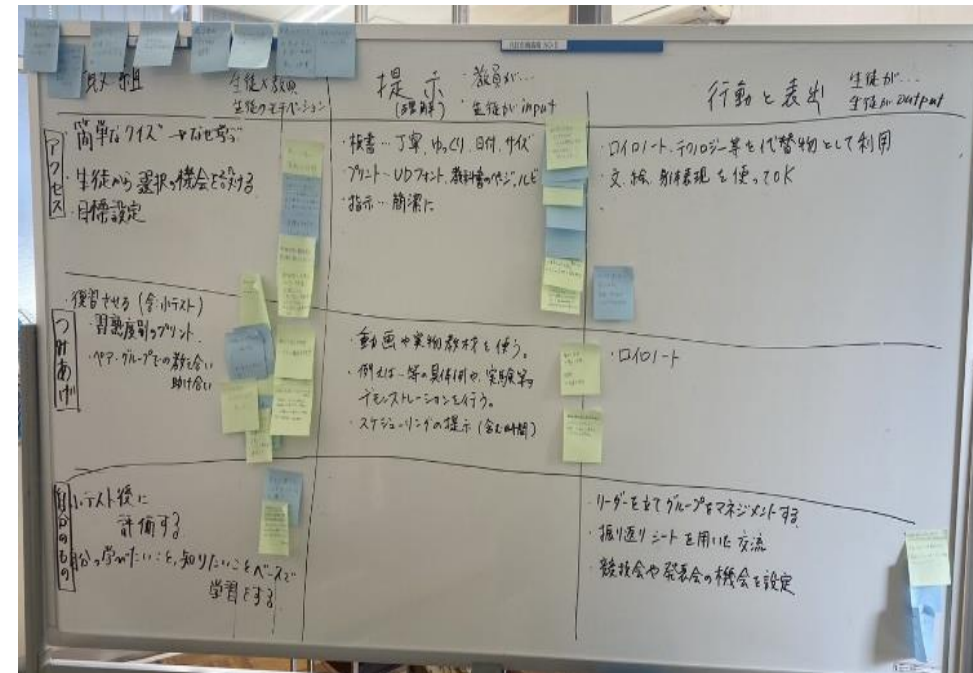
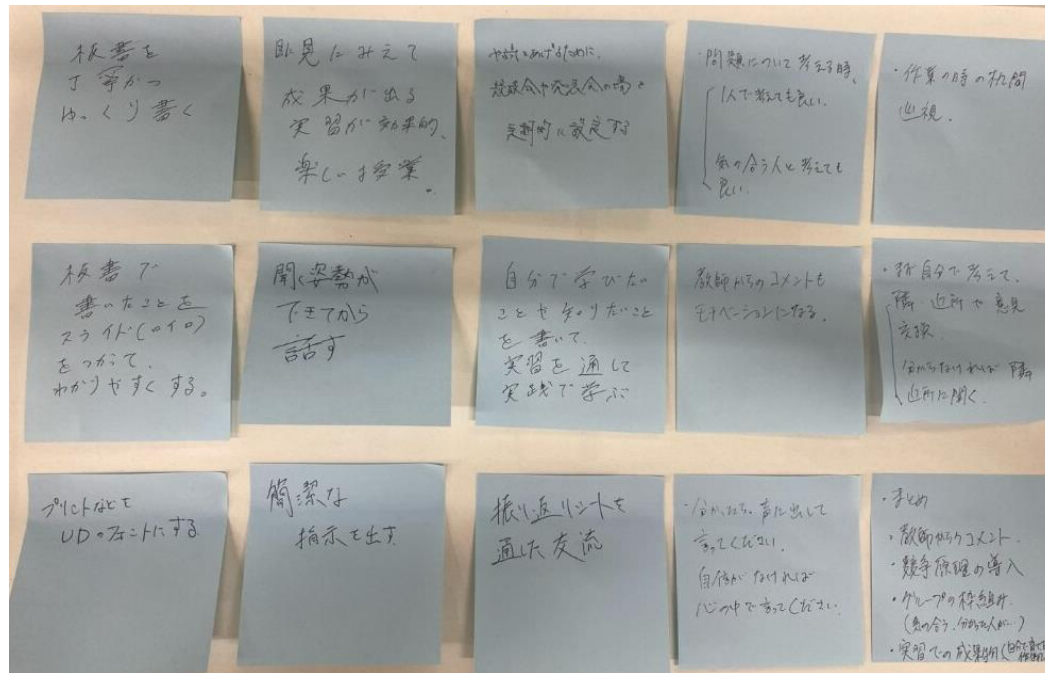
ユニバーサルデザインと 特別支援教育について

京都教育大学

佐藤 克敏 教授

UDLガイドライン

研究経過①（「UDの視点に立った授業づくり」について学ぶ）



グループワークでは…

「取組みに対する多様な方法」の提供(なぜ学ぶか)

について、授業の中でできることを考え、意見を出し合った。

研究経過②（授業参観により具体の授業改善について学ぶ）

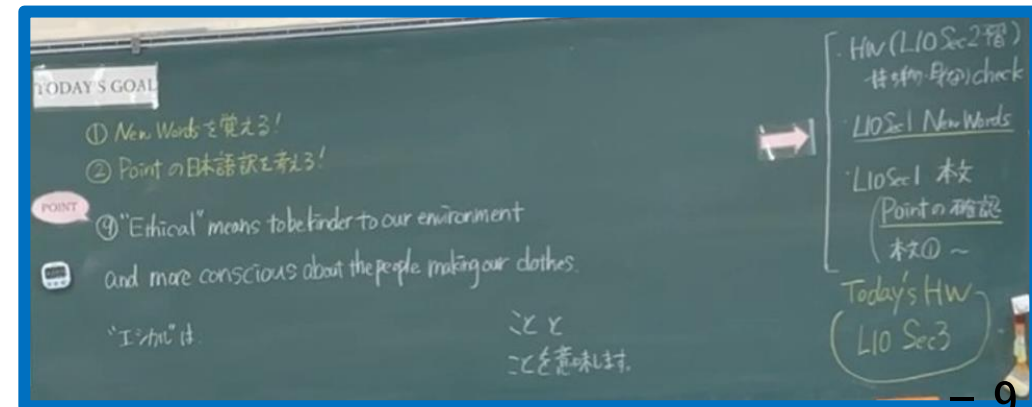


① 他教科の授業参観によりUDの視点から気づいたこと

- ・授業の目標・流れの掲示を板書で行う大切さ
- ・発問の仕方・指示の具体的な出し方
- ・ICT機器の活用・ペアワークの活用 等

② 授業改善への助言

- ・生徒の特性に応じること
- ・生徒の学習進度に合わせることに

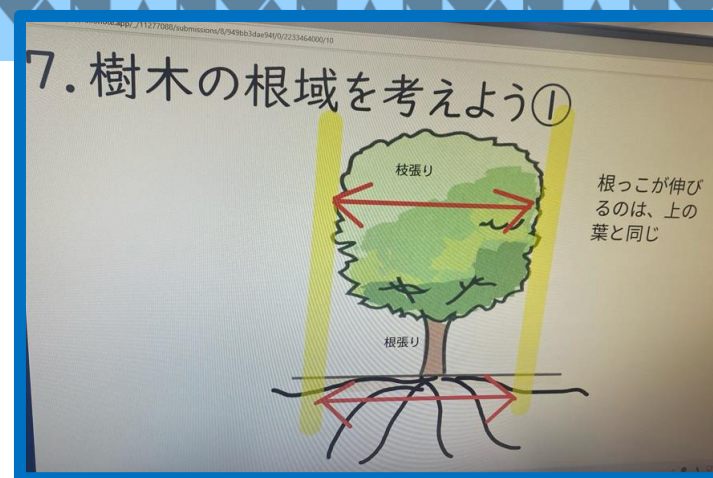


本時の目標と授業の流れを明示した板書

今後の進め方

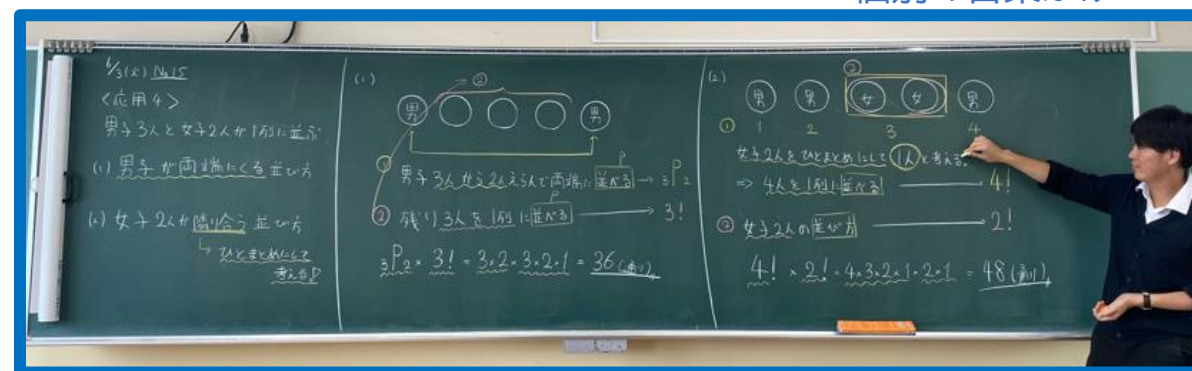
八南ユニバーサルデザイン授業展開(案) ⁴⁾				
		[A]提示(理解)のために多様な方法をデザインする ⁴⁾	[B]行動と表現のために多様な方法をデザインする ⁴⁾	[C]取り組みのために多様な方法をデザインする ⁴⁾
準備 ⁴⁾	① 板書計画 ⁴⁾	☐ 文字サイズ、色、分量 ⁴⁾		
	② ワークシート ⁴⁾	☐ UDフォント ⁴⁾		
	③ 開始 ⁴⁾	☐ チャイムとともに開始 ⁴⁾		☐ チャイムとともに開始 ⁴⁾
導入 ⁴⁾	④ 本時の内容の提示 (目標・流れ) ⁴⁾	☐ 板書、ホワイトボードの活用 ⁴⁾		☐ 本時の目標と流れを明確にする ⁴⁾
	⑤ 生徒の状態の確認 ⁴⁾			☐ ベル着、挨拶 ⁴⁾ ☐ 身だしなみ・机上の整理、期間巡視 ⁴⁾
展開 ⁴⁾	⑥ 分かりやすく伝える工夫 ⁴⁾	☐ スライドの利用 ⁴⁾	☐ 端末の利用 ⁴⁾ ☐ 板書を写す時間の確保 ⁴⁾ ☐ 指示 ⁴⁾ ☐ 個別説明が必要な生徒の対応 ⁴⁾	
	⑦ 生徒が考える内容・活動を入れる ⁴⁾	☐		☐ グループワーク、ペアワーク ⁴⁾ ☐ 端末の活用 ⁴⁾
	⑧ 学び合い ⁴⁾			☐ 生徒間の教え合い ⁴⁾ ☐ ゲーム形式でのグループ活動 ⁴⁾
まとめ	⑨ 振り返り ⁴⁾			☐ (教師の)振り返り ⁴⁾
	⑩ 終了 ⁴⁾	☐ チャイムで終了 ⁴⁾		☐ チャイムで終了 ⁴⁾

チェックリスト(案)



ICTの活用

個別の言葉かけ



1時間の授業が見通せる板書

ユニバーサルデザインの視点に立った授業に
教師全員で取り組める体制づくり

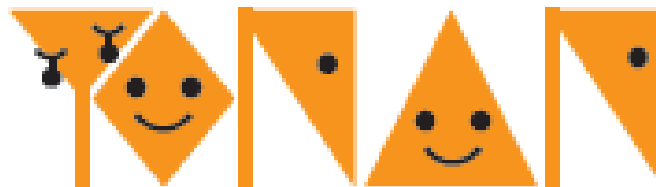
5 最後に



一緒に考える。一緒にやる。

応援してくれる人

応援してくれる場所と一緒に探す。増やす。



いのちをはぐくみ、人を育てる。